

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報 第1号 畑作物

発行日 平成29年 3月16日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコンからは「<http://i-agri.net/agri/>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 小麦 3月に入ってからの降雪によりぬかるんでいる圃場が目立ちます。排水溝の補修・点検を行い、圃場乾燥を促しましょう。融雪期追肥や除草剤の茎葉散布は早めに実施するとともに、麦踏みも茎立ち前までに実施しましょう。

## 小麦

### 1 生育状況

今冬は前半が暖冬で根雪初めが遅れたものの、年明け以降降雪が続くとともに3月上旬にまとまった降雪がみられました。このため、山間部や県北部では雪が残っている圃場がある一方、内陸中南部の水田転換畑ではぬかるんでいる圃場が目立ちます。全体的に顕著な雪腐病被害は報告されていませんが、寒風害による葉先枯れや、鳥害などが散見されます。

越冬前の生育量はやや小さめでしたが、小麦の生育は概ね平年並です。融雪期追肥や除草剤散布は適期を逃さないよう早めに準備を行いましょう。

### 2 排水対策

排水溝が崩れたり、途中にゴミが詰まっていないか点検し、確実に排水できるよう補修しましょう。

例年、隣接する水田からの流入水等の影響で生育の悪い圃場が散見されます。畦畔を補修するとともに、茎立ち前を目安に必要なに応じて圃場内排水溝を設置しましょう。



写真1 水口付近の滞水が目立つ小麦圃場 (3月上旬)

### 3 麦踏み

生育が旺盛な場合や凍上害が心配される場合、鎮圧ローラーやタイヤなどを用いて麦踏みを行いましょう。生育を揃え、耐倒伏性を高める効果もあります。麦踏みは、消雪後から茎立ち前にかけて、圃場が乾いているとき実施します。麦の生育が劣る場合や土壌水分が高い場合は避けます。

### 4 融雪期追肥

融雪期追肥は、生育量を確認し、下記の表を参考に茎立ち前までに行いましょう。縞萎縮病や白鳥による食害を受けた場合にも、融雪期追肥が有効です。

表1 生育量に基づく融雪期追肥の目安（ナンブコムギ・ゆきちから、追肥量は窒素成分）

品種名	診断内容	融雪期追肥の対応
ナンブコムギ	越冬後茎数 120 株/m <sup>2</sup> (茎数 1000 本/m <sup>2</sup> 以上)	追肥しない
	越冬後茎数 75~120 株/m <sup>2</sup> (茎数 400~1000 本/m <sup>2</sup> 程度)	2kg/10a 追肥
ゆきちから	茎数 1900 本/m <sup>2</sup> 以上	追肥しない
	茎数 1400~1900 本/m <sup>2</sup>	2kg/10a 追肥
	茎数 1400 本/m <sup>2</sup> 未満	4kg/10a 追肥
	※水田転換畑 1~2 年目で堆肥を 施用しない場合	4~6kg/10a 追肥

表2 融雪期追肥の目安（銀河のちから、追肥量は窒素成分）

収量水準 (kg/10a)		越冬後茎数 (本/m <sup>2</sup> )		
坪刈	全刈 (目安)	300 以下	300-600	600 以上
400	280~320	4kg/10a 追肥	2kg/10a 追肥	2kg/10a 追肥
500	350~400	4kg/10a 追肥	4kg/10a 追肥	2kg/10a 追肥
600	420~480	6kg/10a 追肥	6kg/10a 追肥	4kg/10a 追肥

注) 全刈収量は坪刈収量の7~8割として推定

## 5 除草

暖冬年は一般に雑草の発生が早いだけでなく、発生量が多い傾向が見られます。圃場をよく観察し、雑草が生えそろうて小さいうちに早めに茎葉処理除草剤を散布しましょう。

## 6 ムギ類萎縮病、コムギ縞萎縮病について

どちらの病気も土壌伝染性のウイルスが原因です。名前のおり株が萎縮し、黄緑色のかすり状の斑点・モザイク症状を示します。特にナンブコムギでは多発圃場が年々増加しており、今年も被害が大きくなることが予想されます。萎縮病の症状が見られた場合は、追肥で被害を軽減しましょう。

次号は4月27日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター・地域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。